

第2回まち・ひと・しごと創生懇談会の概要

日 時 : 8月26日(水)午後3時00分～4時30分

場 所 : 4階会議室

出席団体:

鈴木座長 木更津商工会議所 会頭

江沢委員 木更津市富来田商工会 会長

白井委員 木更津市農業協同組合 総務部長

高浦委員 木更津市6漁業協同組合連絡協議会 事務局長

小出委員 木更津市公共職業安定所 所長

石橋委員 千葉県君津地域振興事務所 所長

湯谷委員 木更津工業高等専門学校 准教授

丸橋委員 学校法人君津学園 清和大学 教授

戸塚委員 金融懇談会 千葉銀行木更津支店 支店長

中島委員 連合千葉南総地域協議会 君津地区連絡会 幹事

大橋委員 株式会社ジェイコム千葉 木更津局 局長

平野委員 木更津市区長会連合会 会長

武田委員 木更津市社会福祉協議会 副会長

鈴木委員 木更津市保育協議会 副会長

白石委員 木更津市PTA連絡協議会 会長

とりまとめた人口ビジョンの骨子(案)及び総合戦略等の骨子(案)について説明し、その視点や方向性などについて、各委員から意見を頂いた。

【以下、意見の概要】

・「多様なライフスタイルの実現できるまち」と記載があるが、多様なライフスタイルというのをもう少し具体化してアピールできれば、良いのではないかと。

・「オーガニック」を基本理念とするということで、まちづくりのコンセプトとしては非常に新鮮で面白いと思うが、どのようなところがオーガニックなのかを上手くアピール出来れば良い。

・若い世代や独身に目を向けて、婚活パーティー等のイベントを立ち上げ、市内外から男女を募集し、カップルが成立したら木更津に定住をするという条件で空き家を提供するのはどうか。

- ・現在、年4回の児童手当を毎月にする。また、二子三子には手当を多くする等の工夫が必要。医療は、任意の予防接種への補助等、安心して生活ができるような援助をしていったらどうか。
- ・ワーク・ライフ・バランスという点で、労働力としての女性の活躍の推進、多様な働き方を男女限らず作っていくことにより、人口の減少に歯止めがかかるのではないかな。
- ・政策分野1の具体的な施策の中に、ワーク・ライフ・バランスの促進という項目があるが、国の戦略の中にはそれにプラスして「働き方改革」と記載がある。「働き方改革」と言うのは時間外労働の削減や有給休暇の取得促進などの実現をすることで、実現すればより魅力のある企業が木更津市の中に増えてくると思う。木更津市の総合戦略の中にも「働き方改革」というのを盛り込んで頂ければと思う。
- ・農業、漁業については、後継者問題を抱える中で、どうすれば継続していけるかなどを考える必要がある。漁業は、東京湾に面する漁協が23漁協あるが、そこでも10数年前から比べると、2000人近くが漁業を辞めている。
- ・新規就農促進の中で、第三者に入ってもらうなど、市が仲介を実施しても良いのではないかな。また、仕事としてやるほどではないが、休日の楽しみとしてや、老後の生きがいとして農業に携わってみたいと思う人をうまく取り込み、担い手の一端とするのはどうか。
- ・色々な企業や研究機関を持つアカデミアパークとの連携した施策を盛り込んだ方が良い。
- ・若い方々の雇用の創出という点を定住化促進等の施策と絡めること。例えば駅前の活性、再活性等、様々な議論が考えられると思う。
- ・人口をさらに増やすためには、子育て、教育、医療、介護が整っており、木更津は安心して生活ができる最前線の市だと、しらせること。
- ・都会の人間や若い世代を呼び込むには、教育関係と医療関係の充実や治安の良さが重要な点だと思う。
- ・教育関係は、「大学等との連携による地域づくり」という記載がありますが、医療関係は無いので、盛り込んで頂ければ良いと思う。
- ・教育では中高一貫校や、有名大学の附属をつくりブランド名をアピールして人を呼び込むべき、また、医療では、医大の木更津総合病院を作るなど、力を入れる必要がある。
- ・小、中、高、大の先生同士で交流やタイアップをしていくことが重要である。例えば、中学校の先生が進路相談をされた際に、普通科だけでなく高専など、生徒にあった情報提供をすることができる。
- ・駅の開発については、バスの駅というイメージでバスターミナルを作り、そこにモールなどを入れて、バスの中心地として駅を活性化させたほうが良いのではないかな。電車は思い切って、観光化した形で機能させたほうが良いのではないかな。

- ・アクアラインを活用するという点で、通勤手段の利便性に優れたバスターミナルを整備し、人の流れを良くしていくこと。まず木更津に住んでもらうというところから始めることが一つの手段。
- ・木更津出身のグループ氣志團などに、木更津をアピールしていただくのはどうか。
- ・観光面については、内湾について観光船のようなものを作ってアウトレットからイオンまでを繋ぐような客船としてのPRなど、木更津らしさを押し出した、他にはない内湾の活用の仕方もあるのではないか。
- ・富来田地区は、秋はコスモスロード、春は菜の花ロードになり、若いカップルから親子連れまで、毎年たくさんの観光客が集まってくる。何かを仕掛ければ人が来ることを毎年実感している。
- ・市民のまちづくりに対する心意気が必要。特に「きれいなまちづくり」という視点が重要。美しくて豊かなまちは安心して住める。
- ・協働のまちづくりの推進であるが、ある程度、市の方で未来の担い手を育成していくことも必要である。
- ・高齢化などにより、人材が不足する中で、女性や高齢者をどう活用するかという視点が重要。オーガニックという理念をつくるのであれば、例えば高齢者と若者、女性と男性、多様な人を有機的に繋げるとか、そういうアピールの仕方ができると思う。
- ・新興住宅地を増やすのではなく、今ある住宅地をうまく活用し、空き家にならないように、住民の入れ替わりを考えた施策が必要。
- ・旧住民と新住民をうまく融和させるような施策を市で考えてもらっても良いのではないかと。キーワードとして、木更津っ子という文言があるが、子どもに限らず、転入してきた大人も木更津っ子になってもらう、という視点もあるのではないかと。
- ・太田山公園をもっと大事にしていければと感じる。また、木更津は鎌足桜などの桜の名所であり、太田山公園や矢那川沿いなどに多い。そこに遊歩道を整備し、観光のアピールと考えていければ良いのではないかと。
- ・自治会組織に入っていない方が非常に多い。自治体組織への加入率というのが、一つ地域の活力に繋がる。高齢化によって脱退する方や、新しい町内の自治会組織の加入率の問題もあるので、建築販売会社などと協定を結ぶなど加入促進の方法を考えていきたい。
- ・あいさつ運動を広げられないかと思っている。ある中学校では、生徒が必ず挨拶をするので素晴らしい。あいさつ運動の活性化は重要。
- ・地域住民、保護者、卒業生、地域で退職された方、そういう色々な知識を持つ方を学校に参画させてコミュニティスクールとして地域と連携させ、運営するという方法はあるか。
- ・地方創生の推進にあたって、広域連携の取り組みについて、金融機関は仲介役として役割を果たしていきたい。